

# 数値標高モデルを活用した気象データ補間による 省エネルギー建築デザインの支援

佐藤智穂 紙屋 柁 邑  
松本真一 浅野耕一  
長谷川兼一

## キーワード

AMeDAS 気象データ, 補間, 数値標高モデル, ライフサイクルコスト

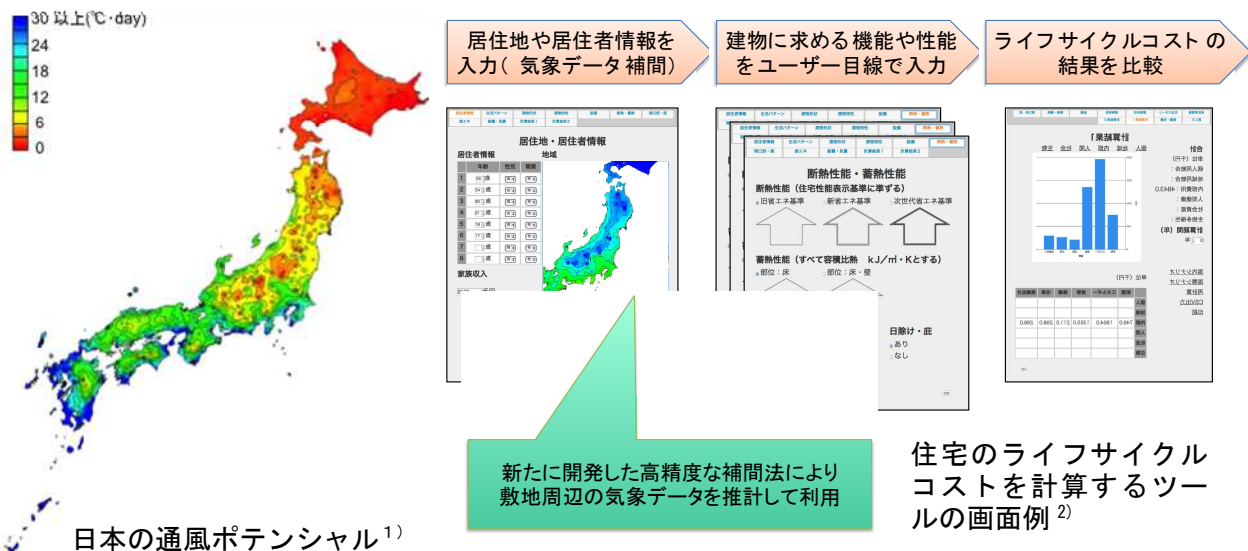
## 地球温暖化の対策の1つ…省エネルギー建築 自然エネルギーを活用した設計が大切



そこはどんな特徴の気候なの？  
そこではどんな自然エネルギーを活用できるの？  
どれくらいの金額で省エネ住宅に住めるの？

## 数値標高モデルの活用によって予測できる！

- ◎気象観測していない場所の、気候特性の予測(補間)の精度が高くなる  
数値標高モデルの使用により、3次元的に予測(補間)ができ、高い精度に
- ◎自然エネルギーのポテンシャルがより正確になる  
高い精度の気候特性の把握に伴って、その土地の自然エネルギーのポテンシャルも正確に
- ◎地域ごとに省エネな設計指針の提案  
気候特性やポテンシャルが分かることによって、どのような設計がベストか分かりやすい
- ◎その地域に住むときのライフサイクルコストが、より精度の高いものになる  
利活用する自然エネルギーによるライフサイクルコストの違いを比べることができる



- 1) 佐渡谷有希, 松本真一ほか: 拡張アメダス気象データを用いた自然エネルギーポテンシャルマップの作成, 日本建築学会東北支部研究報告集 計画系, pp. 59-62, 2007. 6.
- 2) 池 隆裕, 浅野耕一, 長谷川兼一ほか: 設計初期段階でのクライアント自身による使用を想定した住宅用ライフサイクルアセスメントツールの試作, 日本建築学会技術報告集, Vol. 22, No. 52, pp. 1041, 2016. 10